

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892800042		
法人名	株式会社あつぷる		
事業所名	あつぷるグループホーム播磨		
所在地	加古郡播磨町野添401-3		
自己評価作成日	平成30年10月10日	評価結果市町村受理日	平成30年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティー・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成30年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、地域の飲食店、スーパー、公園などに外出する機会を持っております。東西のユニットへ自由に行き来できることで利用者様や職員の交流も出ています。地域の方々を招き、「いきいき100歳体操」で一緒に身体を動かしたり、「つどいカフェ」で地域の馴染みの方とお茶を飲みながら話しが出来る時間を持つことも出ています。施設内には平行棒を設置し、機能訓練にも力を入れています。また、危険回避として外部からの侵入を防いだり、緊急時に即対応出来るように見守りシステムの構築もしております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念の具体化に向けての年度目標は、「和、絆を大切にします」である。事業所では、毎週水曜日に近隣住民が多数参加する「いきいき100歳体操」が行われ、入居者、職員も一緒に体操する。時には、「つどいカフェ」を事業所で開催し、介護者家族等に集いの場を提供している。入居者は、人権尊重と接遇、マナー重視の研修を受けた職員と家庭的な共同生活を送っている。ともに食事の盛り付け、配膳を行い、会話を楽しみながら同じ食事を摂る。福祉用具の食器が用いられ、自力できれいに完食できる。季節には鍋パーティを楽しみ、外食にも出かける。法人が行う「利用者家族アンケート」で、一番の心配事の「寝たきり」を予防するため、歩行訓練用の平行棒を設置した。災害対策にも熱心で、全職員が避難誘導できるような4回、災害避難訓練を行う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

あつぷるグループホーム播磨

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の事業所として独自の理念を作成しています。職員全員が、常に携帯し、共有できるようにしている。	法人事業所共通の理念に独自理念を付加して策定し、玄関に掲示している。職員は理念を裏面に印刷した名札を携帯し、時には職員ミーティングで啓発して共有化している。今年度の実践目標は「和と絆を大切にする」である。食後の団欒に対話の時間を設けた。	事業所理念の具体化に向けて、外部評価による目標達成計画の「目標」や「目標達成に向けた具体的な取組み内容」等を年間レベルの計画に取り込んで実践していくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に毎週水曜日に来訪いただき、利用者様たちと一緒に100歳体操を行っている。また、近隣保育園の運動会や音楽会の予行演習にも参加し、園児と交流している。	毎週水曜日には、地域の「いきいき100歳体操」を事業所で行う。時には「つどいカフェ」を開催し介護者家族等に集いの場を提供している。事業所の夏祭りには近隣の方々とパターゴルフに興じた。保育園の運動会の予行演習を見学して園児と交流した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	播磨町推進の「つどいカフェ」を定期的で開催し、認知症や介護について地域の方と一緒に気軽に話が出来る機会を持っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に、運営推進会議を開催し、地域包括支援センター職員や民生委員、老人会長、医療関係有識者、利用者、利用者家族にも参加していただき、率直な意見を頂きサービス向上に活かしている。	入居者及び家族代表、老人会長、民生委員、地域包括支援センター職員、協力医療機関相談員をメンバーに偶数月に年6回開催しており、運営状況を報告しメンバーから地域情報や助言を得て運営に生かしている。10月に入居者家族アンケート結果を報告した。	外部評価に係る家族アンケート結果や外部評価結果並びに「目標達成計画」を運営推進会議に報告して助言を得る等、外部評価と運営推進会議とを一連のものとして運用をされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課の受付窓口に、パンフレットを設置していただいたり、空室情報など知らせたり、地域包括支援センターとも同じように連携出来ている。	「いきいき100歳体操」、「つどいカフェ」を事業所で開催する他、職員が「認知症サポーターキャラバン」のキャラバン・メイトに登録を準備する等、播磨町の高齢者支援事業への協力を通じて、地域包括支援センターや播磨町職員との協力関係を維持している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中 玄関、東西ユニットや事務所は施錠せず、自由に行き来できるようにしている。身体拘束の研修も行っている。	法人が全事業所の管理者等を対象に研修を行い、管理者等は、これを受けて年間の研修計画に基づき伝達研修を行う。今年度は姫路市監査指導課の資料をもとに「身体拘束禁止の対象となる具体的な行動」、「緊急やむを得ない場合」の要件等を再確認した。	

自己評価および第三者評価結果

あつぷるグループホーム播磨

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間職員定例研修に落とし込み、高齢者虐待について学ぶ機会を設け虐待の種類や発見時の措置方法を周知徹底し虐待防止に取り組んでいる。	法人の全体研修を受け、事業所は7月と12月に研修を計画している。今年度は、毎年行う職員のストレスアンケートの結果や製薬会社作成資料を材料に意見交換を行う。ストレスの早期発見のため、契約更新期の個人面談や本社の「仕事相談窓口」の仕組みがある。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間職員定例研修に落とし込み、学ぶ機会を設けています。必要時には活用できるように支援していく方向です。	入居者に被保佐人がおり、成年後見制度について現実に学んだところを共有化している。毎年研修計画に組み込み研修を行っている。今年度は3月に成年後見制度及び日常生活自立支援事業の学習を予定している。成年後見制度のパンフレットを置いている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書、契約書をわかりやすく説明し、料金や報酬加算、解約についてもわかりやすく説明し、納得をされた上で署名、捺印を頂いている。	主に事業所の相談室で重要事項説明書、利用契約書等の内容を丁寧に説明している。利用料金、個人情報の使用目的、緊急時の対応など、入居後にトラブルとなるケースをイメージして、家族の不安や疑問に答えている。緊急連絡先は欠かさず2か所提供してもらおう。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス向上委員会の取り組みとして利用者様アンケートを実施、出された家族の意見や要望について職員で話し合い検討し、サービス向上に努めている。	法人が毎年行う「利用者家族アンケート」によれば、家族は入居者が「寝たきり」になることを最も心配しており、その予防策に当事業所に平行棒を設置した。家族に毎月の必要費の精算に事業所に来てもらった際にも意見要望を聞き取り、運営に役立てている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員定例ミーティングで意見や提案を聞く機会を設け、現場の声を反映させている。	職員の気づき、連絡事項は申し送りノートと業務日誌に記載して共有化する。職員は、毎月開催するユニット及び定例ミーティングで自由に意見を述べる事ができる。管理者は極力現場に出て入居者に声掛けし、職員とのコミュニケーションに心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のライフスタイルに応じ、常勤・非常勤が働いています。得意分野を見極め、各仕事の担当を決めています。ユニットの勤務変更も行っています。		

自己評価および第三者評価結果

あつぷるグループホーム播磨

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	H30年度は1名介護福祉士資格を取得しました。 社内研修や二市二町グループホーム協会等で外部研修の情報交換行い、介護技術向上の研修や感染症予防の研修等の研修を受けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東播磨の二市二町グループホーム協会の定期的な勉強会や講演会に積極的に参加しています。職員も参加し、交流の機会を得ています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時より利用者本人の話を傾聴し要望や不安など理解するように努めている。 入居後は個別で担当職員を決め、本人の安心に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より困りごと、不安なこと、要望など聴取し、ご家族の思いに添えるような関係が築けるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	透析の必要性を見極め、病院と連携し通院していただいている。相談内容によってはデイサービス・有料老人ホーム等他施設の利用をすすめさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識をせず、「出来る事はしていただく」スタイルで一緒に家事を行い助け合える関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必ず月一回は面会して頂けるようにしており、本人、家族、職員が一緒に話できる機会にしています。また、通院時ご家族と一緒に職員が同行させていただくこともあります。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣家族や友人に気軽にいつでも来ていただけるようお願いしている。来訪時にはお茶を提供し、居室でゆっくり出来る雰囲気作りに努めている。家族との外出や外泊もされている。	家族、友人、「いきいき100歳体操」で顔馴染みの方々に気軽に事業所を訪ねて下さるようお願いしている。地域の祭り、行事に出掛け、事業所の夏祭り、「つどいカフェ」に近隣住民を招いている。家族に年賀状、季節の便りを出す支援をしている。	

自己評価および第三者評価結果

あっぷるグループホーム播磨

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事準備や洗濯、共有スペースの掃除など利用者同士のかかわりが持てるようにしている。別ユニットに行き、会話を楽しめたりされる方もおられます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の了解を得て、現在の入院先、または入所先に訪問させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活リズムの把握が出来るように、日常のかかわりで表情や行動を見ながら、思いを理解出来るように努力している。	入居者との日常の関わりや、会話から思いや意向を把握し、申し送りノートに記録して共有している。家族からの情報は業務日誌に記載し、介護計画にも反映している。入居直後で帰宅願望の強い入居者にパズルを提供し落ち着いたケースもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までと変わらない暮らしが出来るように、基本情報に記入をお願いしている。長期間の別居などにより生活歴や習慣が家族から聞き取り出来ない場合は、生活しながら本人への聞き取りで情報収集することもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	わかること、出来ることなど現状把握に努めています。まず、好きなこと、出来ることに注目するようにしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介助方法など、家族様の疑問にお答えし、現場を家族様にも体験していただき一番良い介助方法を職員も一緒に考え、計画を作成している。	入居者との日常の関わりから思いや意向を把握し、家族と介護計画の中身について話し合っている。ミキサー食の入居者には、家族に実際に食事介助を体験してもらって、体験を通じての意見、意向も聞き介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、排泄及び日々の暮らしの様子などを記録している。申し送りノートを活用して、情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方の方もおられ、通院など必要な支援は柔軟に対応している。薬の変更、量なども居宅療養管理指導で薬剤師に相談したこともある。		

自己評価および第三者評価結果

あっぷるグループホーム播磨

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーに買い物に出かけたり、出前の利用、また喫茶店にコーヒーを飲みに出かけたりしている。また、希望者は訪問マッサージの利用で身体機能の維持に努めている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の意向を伺い、かかりつけ医の受診をしていただいている。家族様の希望があれば、提携している協力医への受診を行っている。常に協力医の地域連携室に相談している。	入居者、家族の意向に沿って受診支援をしている。希望により協力医療機関の受診に付き添っている。透析が必要な入居者には連絡ノートに詳細な日々の情報を書き込み受診支援を行っている。歯科医には、入居者、家族の希望を受けて往診してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化があった場合には、まず訪問看護師へ相談し、受診が必要な際は救急搬送の有無も確認、緊急性がなければかかりつけ医や協力医の連携室に電話相談しスムーズな受診が出来るようにしている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ情報提供している。入院中は、家族や地域連携室と情報交換し、経過や退院時の対応など、早期退院に向けて相談している。特に透析の利用者は、日頃より連絡帳や電話にて情報の共有ができる関係づくりを行っている。	入居者に変化があった場合は訪問看護師と相談して協力医療機関又はかかりつけ医への受診を手配している。入院時には間を開けずに情報提供を行っている。また入院中の経過、退院後の対応の情報を入手し、円滑な日常生活への復帰を支援している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合や終末期について、入居契約から早い段階で家族と話し合い、意向を確認しながら、事業所として出来る範囲のことを伝えている。	契約時に入居者が重度化した場合の対応について話し合っている。かかりつけ医から家族に終末期対応に関する説明があり、家族から相談を受けた時は、事業所で、できる支援、できない支援を記載した「終末期に向けての要望書」で家族の意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	危機管理や事故発生時について、職員定例研修会で学ぶ機会を作っています。基本的な医学知識として正しい対応の仕方を勉強している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1度、避難訓練を行っている。消防署と合同でも行っており、避難誘導方法を身につけられるように努めている。社内防犯委員会の防災マニュアルも活用している。地域住民にも協力を依頼している。	職員全員が避難誘導法を習得するため、年4回、消防訓練を行っている。1回は災害(津波、水害)を想定して、緊急避難場所のホテルへの避難訓練を行う。災害発生時には、近隣住民の協力をお願いしている。法人策定の防災マニュアルを活用している。	公共交通機関の予告運休により出勤ができない、出勤したが早期帰宅になつたり、通勤時の災害で出勤出来ないことも想定し、対応マニュアルを整備してはどうか。

自己評価および第三者評価結果

あっふるグループホーム播磨

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員定例研修でプライバシー保護について学ぶ機会を持っている。また、接遇やマナーの研修も行っている。尊敬の念を大切にしたい声かけをするように心がけている。	年長者を敬い、接遇を重視して丁寧な言葉遣いをするよう徹底している。職員全員に企業グループのマナーブックを配布して啓蒙している。研修では人権尊重、プライバシー保護、接遇・マナーを学ぶ。食事中的会話、排泄時の声掛けの際には配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご本人の希望を聞きだせるように声かけしている。意思表示が困難な方は、表情や日頃の生活の中から好みなどを把握している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や散歩、レクリエーションなど声かけし、拒否があれば、日時を変更している。食事でも個人のペースでゆっくりとさせていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服はご本人に任せている。理美容も希望を伺い、訪問を利用される方、近隣の美容院へ行く方などおられる。利用者様より化粧品の購入希望があれば、そのつど購入している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事している。食事中は昔懐かしい歌謡曲をBGMとして流し、楽しい雰囲気づくりをしている。買い物や調理、片付けなども一緒にしている。	テレビ画面から昭和の演歌が流れる中、入居者と職員とが会話しながら、同じ食事を摂っている。料理の盛り付け、配膳や片付け、お盆のふき取りなどを一緒に行う方もいる。福祉用具の食器を使用し、自力できれいに完食できる。季節には鍋パーティーを楽しむ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は基本栄養士がバランスを考え立てているが、利用者の希望や好みを聞き、変更している。また、外食をしたり手作りのおやつを楽しんだりもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ、誘導をしている。3ヶ月に1回程度、歯科に行き口腔チェックも行っている。		

自己評価および第三者評価結果

あつぷるグループホーム播磨

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を心がけている。その方の状態に合わせ、定期的にトイレ誘導、介助している。	排泄表の個々の排泄パターンで定期的に誘導したり、表情、態度を見て誘導するなどの工夫をし、トイレで排泄できるよう支援している。さりげない声掛けを心掛けている。トイレ内に四角に切った新聞紙を置き、排せつ物の包み込み処理ができるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食の牛乳やヨーグルト等で予防を心がけている。また、散歩や室内、平行棒内の歩行訓練など身体を動かす機会を持ち、自然な排便が出来るよう支援している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎朝、入浴の意向を伺う。希望により、日時の変更をしている。行事の時にはしょうぶ湯・ゆず湯等季節湯を楽しんで頂いている。	週2回入浴できるよう支援している。病院受診の前日には入浴できるよう配慮している。入浴日には朝に希望を聞いて変更を加えて柔軟に対応している。季節にはしょうぶ湯やゆず湯を楽しんでいる。折り畳み式のシャワー椅子を置く等安全面にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めずに個々のリズムに合わせた支援をしている。体調や気分により居室で自由に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別に整理したり、薬管理の担当者を決めている。主治医に薬の効果や相談など行ったり、薬剤師による勉強会も行っている。飲み忘れがないように、チェックも毎回行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	創作や歌・ゲームなど、皆で一緒の時、読書や編み物・日記をつける等一人になりたい時は居室にてゆっくり取り組んで頂けるよう個々に合わせて対応しています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物に外出している。外食や喫茶を楽しんだり、地域の祭りに参加したり、花見や紅葉を見に行く等季節を感じられるようにしている。	入居者の希望で事業所周辺を散歩したり、近所のスーパーで買い物して喫茶コーナーでおやつを食べたりする。地域の祭りを見学したり交流のある保育園にも出かける。季節には、皆で初詣や花見、紅葉見物に施設の車を利用して出かけている。	皆さんが日常的に外気にあたれよう玄関口のベンチを利用して植木やプランタへの水やりをしたり、また駐車場の隅にプランタを設置し、水やり以外のお世話も日課にされたいかがでしょうか。

自己評価および第三者評価結果

あっふるグループホーム播磨

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には、本人が自由に使えるお金を所持していただき、自分で欲しいものを選んで購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、かかった時は取次ぎ、かける時は事務所の電話を使用していただいている。家族から手紙が届いたり、また書いて出す方もおられる。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには天窓があり自然な光が入る。清潔な空間が作れるよう掃除も心がけている。壁面には、行事や季節が感じられる飾り付けをしている。	リビングにいくつかのソファが置いてあり、天窓から入る太陽光で、一層明るく感じる。壁面には皆で制作した季節感のある作品が規則正しく飾られている。リビング、トイレも清掃が行き届き、テーブルは入居者と職員が共に拭き清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用リビングには、ソファを設置し、テレビを見たり、少人数で話をしたり出来る。一人になりたい時は居室で読書をしたり、編み物をしたりと自由に過ごしていただいている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ新しいものを購入せず、自宅で使っていたものを持ちこんでいただくように話をしている。	居室には今まで使っていた馴染みの物が並び、ベッド、整理ダンスも使い慣れたご自身の物である。そんな環境の中でゆっくりと過ごされている。天井に設置する見守りシステムは、入居者の安心感を醸成するとともに危険予知に役立っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に合わせた福祉用具の使用や手すりを持って移動が出来るよう安全に過ごせる配慮をしている。また、トイレには大きな表示をし利用者様が安心してトイレに行けるようにしている。		